

本日も、熊本労災病院のホームページを訪れていただきありがとうございます。大きな台風が通り過ぎ、朝夕の風に何となく夏の終わりをを感じるようになりました。お盆が終わると、夏が終わる、夏休みが終わる、という感慨に浸ることは多いのではないのでしょうか。各地で行われる夏祭りは、7月のそれは暑さを吹き飛ばし、さあ夏をがんばろう、楽しもう、という思いをかき立てますが、お盆の頃、あるいはそれが終わった頃のお祭りは、静かにご先祖に感謝し、実りの秋を豊かに迎えましょう、という少し落ち着いた雰囲気の中にあるように思います。高校野球の決勝戦が近づくのもこの時期ですが、高校生の頃、自分の高校の応援はとうに県大会で終わり、高三の野球部同級生は引退してそろそろ髪が伸びてくる頃、みんなで集まって学校で自習しながら、二学期、そして受験が急に現実味を帯びてきたことが思い出されます。熊本工業の三年生たちも、悔しさのあとの開放感に浸り、野球以外の道を考えているのでしょうか。

8月5-6日に、日本医療機能評価機構というところから7名の審査員が訪れ、当院の病院機能評価、が行われました。これは5年ごとの審査で、病院の規模に応じた標準的な医療や体制を整備しているかどうかのチェックです。お上の取り締まり、と言うわけでは無く、至らぬ所がもしあれば指摘していただき改善しましょう、という仕組みです。とはいえ、どうせならいい成績とりたい、と思うのが自然で、半年以上にわたって職員のみなさんが準備をしてくださいました。終了後、講評がなされました。決定的に標準を逸脱している点などは指摘されませんでした。入退院支援センターの業務、感染対策、医療機器管理の充実、薬剤師業務やリハビリの拡充、診療録記載のチェック、などが指摘されました。これらの多くが、マンパワーの不足も背景にあり、特に医師以外の人員の拡充が必要と痛感しました。病院として医師確保は継続的な至上命題ですが、昨今のチーム医療レベルの向上には、医師以外の職員の充実が必須です。現在、個人の頑張りに頼っている面が大きいと思いますが、外部からの指摘も契機に、患者さんに迷惑をかけないよう、またさらに心のこもった医療を実感してもらえるように、増員を考えていきたいと思っております。

遅まきながら、当院でも、8月1日から職員の出退勤確認のためタイムカードを導入しました。私も朝晩使いますが、まだ習慣づいていないために時々忘れま。これまで、医師についてはその出退勤は超過勤務手当の自己申告時間でしか管理されていみせんでしたが、今後、このカードデータの収集で、医師たちがどれくらい病院にいるのか明らかになってくるでしょう。10年ほど前、大学

病院の院長をしているころ、労基署の査察で医師の勤務時間管理へのタイムカード導入を強く推奨されながらなんとか逃れようと、二つの診療科が二ヶ月ごとに持ち回りで一部職員の全勤務時間を手書きで記録し、それを毎月労基署がチェックするという方式をとっていました。今は大学病院も、web 上での全員管理になっているようです。医師の労働時間が正当に評価されて、これまでのような、サービス残業が当たり前、聖職だからお金にかえられない、などという議論から脱却していくことは当然のことでもありましょう。ただ、医師が、そのような、労働と対価、しか考えていない、と思われるのは不本意です。古い教育を受けてきたからというわけではなく、たとえ当座の対価が無くても将来の自分と患者のために使える時に体と頭を使うべき、という考え方が、まるで「悪」のように評価されることには強い違和感を覚えます。上司や他人が強制する、強制する環境がある、というのではなくて医師が自らの思いで行う仕事や患者サービスまで強制的にしばることは、医師の働き方改革に添わないように思うのは私だけでしょうか。

そろそろ来年の研修医の募集締め切りになります。面接を経て、マッチングが行われます。当院の定員は 8 人です。若い医師に人気がある職場は、研究機会と指導者に恵まれ、尊重されながら学べるどころ、ということになります。これは患者さんにとっても良い病院の要素です。若い人たちは、さらに病院をもり立ててくれます。期待して、元気で未来あふれる若者たちを待ちたいと思います。

消費増税も迫ってきました。患者さんが支払う医療費には消費税はかかりませんが、病院が医療行為のために購入する薬や医療機器には消費税がかかります。当院のように高度な医療を行えばそれだけコストもかかり、増税の影響も大きくなります。今年の診療報酬改定では国がある程度補填してくれるようにはなっていますが、全国の医療機関は、実際どうなるだろうと心配しながらそのときを迎えようとしています。現場で医療をやっている医師なら、こんなこと考えるべくもないでしょうが、院長とは情けない仕事です。

残暑、ご自愛ください。